

脳疾患の発症を未然に防ごう!

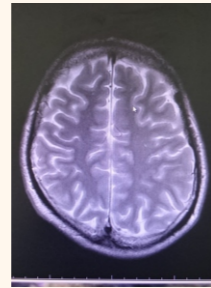
脳ドック検査におけるMRI、MRA検査の有用性について

2018年6月、厚生労働省から2018年の『人口動態統計月報年計』が公表されました。それによりますと、死因数の第一位は悪性新生物（がん）第二位は心疾患、第三位は老衰、第四位が脳疾患となっています。脳疾患は、過去には死因数の第一位となっていた時期もありましたが、医療、医学の進歩によって、毎年その人数を減らしてきています。しかし、脳疾患は手足の麻痺や言語障害などの後遺症が残ることが多く、助かった後で生活に支障をきたすことも稀ではありません。病気は『発症してから治す』時代から、『発症を未然に防ぐ』時代へ移りつつあります。皆さんも一度、自分のため、家族のために脳ドック検診を受けてみませんか。

当院の脳ドック検診はMRI+MRA

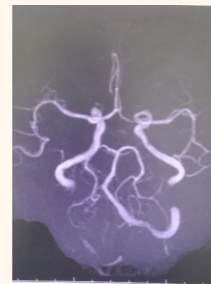
脳ドックといっても、検査項目や料金などは医療機関によってさまざまです。一見すると料金が安く、お得なように感じても検査項目が少なく、しっかりとした結果が得られないこともあります。検査項目を確認し、納得して検査を受けるようにしましょう。当院にて行っている脳ドック検診の項目は以下の通りです。

- **MRI・MRA検査**
(血管の閉塞・狭窄・動脈瘤のチェック)
- **頸動脈エコー**
(脳卒中と関係の深い狭窄・動脈硬化のチェック)
- **頭頸部X P**
(骨病変のチェック)
- **血液検査**
(脳卒中と関係の深い脂質・糖質関係のチェック)
- **血圧測定**
(高血圧のチェック)



頭部MRI検査

頭部MRI検査は、強い磁場と電波の力を利用して脳を撮影する検査です。CT検査よりも、細かい病変まで見ることができ、脳という【組織】に異常がないか調べることができます。



MRA検査

MRA検査は造影剤や薬を使用せず、脳に張り巡らされている血管の状態を浮き出させる検査です。脳の【血管】に異常がないか調べることができます。

日本脳ドック学会のガイドラインでは、MRI検査だけではなく、MRA検査も受けることが推奨されています。MRIとMRAは検査装置・方法は同じですが、撮影した画像の処理方法が違い、描き出すものが異なります。

MRIが、脳の断面を詳細に写し出し、脳梗塞や動脈瘤、脳腫瘍等を検出するのにに対し、MRAは血管の状態を詳しく見るために用いられ、脳動脈瘤や脳動脈閉塞等を検出します。

脳疾患は、偶然に発症するものではなく、何らかの原因があるものが多い病気です。脳ドックによって原因となる異常を発見して、未然に脳卒中を防ぐことをおすすめします。



脳ドックを受けられたい方は
気軽に健診センターまでお問い合わせ下さい。
☎ : 0146-42-0701

Inkar - インカラ - vol.9



- TOPICS -

院長の独り言
病院祭を開催します
知ってみよう!医療機器の仕組みや役割
脳疾患の発症を未然に防ごう

 医療法人 徳洲会 日高德洲会病院

〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号

☎ 0146-42-0701

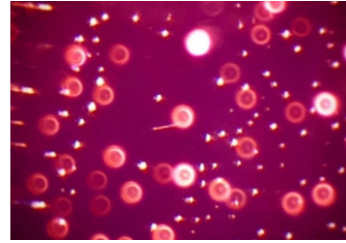
院長の独り言

卵とコレステロール値の関係

「コレステロールが高いですから、卵は1日1個にして下さい」と医師から言われたことがありますか。確かに卵1個には200mg余りのコレステロールが含まれています。「食事摂取基準」2010年版では、コレステロールの目標量は、成人男性は1日750mg未満、成人女性は1日600mg未満でした。しかし、2015年版では、コレステロールの摂取基準がなくなりました。実は、私たちは肝臓で多くのコレステロールを合成しています。体重50kgの人で1日当たり600～650mgにもなります。つまり体内にあるコレステロールのうち、食事から取る分は2割程度で、残りの8割程度は肝臓などで作られているのです。高LDLコレステロール血症と診断されている人や、家族性（遺伝性）高コレステロール血症の人は、卵は1日1個くらいが無難であるという考え方もありますが、一方、卵は血液中のコレステロール値に影響しないという報告もあります。これは、卵黄に含まれるレシチンに、悪玉と言われるLDLコレステロールを減らして、善玉と言われるHDLコレステロールを増やす働きがあり、余分なコレステロールが血



管に沈着するのを防ぐためだと考えられています。厚生省も動脈硬化学会もLDLコレステロール値が高いのは好ましくないという立場です。確かに通説では、LDLコレステロールは動脈硬化の原因になり、心筋梗塞などの危険が高まるとされてきました。一方、私も会員として参加している日本脂質栄養学会は、茨城県や福井市などでの調査からコレステロール値の低い人のほうが総死亡率は高いとしていますが、動脈硬化学会は、コレステロール値の低い人はもともと病気である割合が高く、低いことが死亡率を上げる原因ではないと反論していて、まだ論争は決着をみていません。ちなみに私のLDLコレステロール値は90～100mg/dlとかなり低いです。内臓の病気は全くなく元気はつらつです。現時点での暫定的な結論としては、LDLコレステロール値がかなり高い人や家族性の人を除けば、卵は1日3～5個食べても健康には影響しないと考えられます。



知ってみよう!医療機器の仕組みやその役割

体から発生する振動を聴く“聴診器”



病院へ行くと、医者や看護師が首からぶら下げているのをよく目にする聴診器。お医者さんごっこなどで利用する玩具としても売られており、医療機器として、とても身近な存在にあると言えます。しかし、その聴診器はどんな仕組みで、どんな役割があるのかまで知っている人は少ないのではないのでしょうか。

聴診はかせない診察技法

聴診器とは、心臓、血管、肺、腹部などからの音を聴く道具です。聴診器を使った診察（聴診）は、患者さんの体に負担をかけずに病気を早期発見するためには欠かせない診察技法です。聴診器は主に3つのパーツから構成されています。

・イヤーチップ

二股に分かれた耳管の先にある耳を挿入する部分です。耳にフィットして、漏れないものを選んでいきます。

・チェストピース

身体の表面に接触させ音を集める部分です。シングルタイプとダブルタイプがあります。シングルタイプは、ダイヤフラム面のみですが、ダブルタイプの聴診器はその反対側にベル面を持っています。

ダイヤフラム面

集音のためにチェストピースに膜が張られています。ダイヤフラムが低音域をカットするので、高音域がよく聞こえるようになっています。



ベル面

ベル面には、膜の部分は無く、ベル面の周辺部分には、ゴムのリングが円形部を取り囲んでいます。ベル面は心音、過剰心音、心雑音、血管音などの低音を聴くのに適しています。



聴診によってわかる病気も

聴診器自体は1816年に発明されましたが、200年以上が経った今でも、心音、呼吸音、腸のぐる音、血管雑音などを聴くための、診察には欠かせない重要な道具として医療の現場で活躍しています。聴診によって発見される病気もあり、大事な医療行為です。病院を受診される際には、その役割を理解いただき、速やかな聴診へご協力をお願い致します。



病院祭を開催します!

9/15 (Sun)
10:00~

新元号“令和”に変わり、はじめてとなる病院祭を9月15日(日)に開催させていただきます。本年度スローガンは『来て見て知ろう! 医療の場! ~令和元年 はじける笑顔 地域とともに~』です。病院が行うお祭りなので、地域の皆様と楽しく盛り上がるのはもちろん、来院いただいた皆様に医療のこと、医療の現場のことを知っていただき当院をもっと身近に感じていただきたいと思い、このスローガンに決定致しました。当日は、バンド演奏や書道パフォーマンスなどのイベントのほ

か、チョコバナナ、わたがしなどの屋台販売、お菓子の調剤体験やワンコイン健診など、病院ならではのイベントも盛りだくさん!みなさまお誘い合わせの上、ぜひご来院ください。



イヤーチップ



チューブ

チェストピース